

審 議 (会 議) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和4年度第2回神奈川県肝炎対策協議会		
開催日時	令和4年11月14日(月曜日)15時00分～17時00分		
開催方法	Web開催		
(役職名) 出席者	(会長) 田中克明 井上郁子(以下、50音順) 加川建弘 賀川美雪 金井成美 小林幸恵(小菅俊彦委員代理) 鈴木通博 今井治彦(野木珠美委員代理) 東健一 松井雅子 幸田吉史		
次回開催予定日	令和5年2月		
問い合わせ先	がん・疾病対策課がん・肝炎対策グループ 根本 電話番号 045-210-4795 ファクシミリ番号 045-210-8860		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事録 ・ 議事概要 	議事概要とした理由	不確定な情報であって、公開すると混乱を生じさせるおそれがある情報(神奈川県情報公開条例第5条(3)の内容)のため
審議(会議)経過	1 議題 神奈川県肝炎対策推進計画の改定素案について <資料1、2について事務局から説明> (会長) ありがとうございました。ただいまの事務局の説明について御意見、御質問等はございますか。改定素案としてまとまった内容になってきたと思います。 (賀川委員) 先日、行われた肝臓病教室の状況を教えていただけますでしょうか。		

今回、肝疾患コーディネーターピンバッジの作成有難うございました。また、肝疾患コーディネーターピンバッジを今後どのように活用したらよいでしょうか。

(会長)

ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。

(事務局)

昨日、田中先生と加川先生に御登壇いただきまして、肝臓病教室を行うことができました。参加者は15名です。アンケートは現在集計しておりますが、参加者の満足度は非常に高かったと認識しております。

ピンバッジについては、これまでなかったものなので、まずは肝疾患コーディネーターに身に着けていただいて、周りに肝疾患コーディネーターであるということを知っていただく必要があります。また、ピンバッジ以外の周知方法について、協議会等で御意見をいただきながら県として進めていくことを考えております。

(会長)

ありがとうございます。私からも肝臓病教室について補足させていただきます。皆様からの質問が多かったのがB型肝炎です。薬の現状と今後についての質問が非常に多かったです。皆様の関心がC型肝炎よりもB型肝炎に移っているという印象を持ちました。加川先生、一緒にやっていただきましたけれども、追加で何かございますか。

(加川委員)

田中先生のおっしゃるように、C型肝炎はDAAが出てから治療が副作用なく簡単にできるようになりましたので、皆様方の質問はあまりありませんでした。B型肝炎は完全治癒が難しいということで、質問も多かったのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。他に質問はございますでしょうか。

(井上委員)

すごく分析された情報を示していただきましてありがとうございます。とてもわかりやすかったと思います。茅ヶ崎市保健所で肝炎の医療費助成の受付をしておりますが、肝疾患コーディネーターについて、協議会が開催される前に調査をしたところ、今のところいないということでした。せっかく100%以上育ててくれているのに、自治体に少ないのは残念だなと思いました。肝炎だとわかり、「いつから治療です」と先生に言われ、これからどうなるのだろうと不安に思われて

保健所の窓口に来られた患者さんに対して、現在保健所で行われているのは、窓口の事務の方が、必要書類が揃っているか、必要事項が書かれているかと淡々と確認しているところです。コーディネーターの知識やスキルを持っていれば、もう少し親切にご案内ができるのではないかと思います。陽性者フォローアップ事業について、33自治体あるにもかかわらず、現在まだ28ということなので、今後増やしていくと思いますが、もう少し窓口対応を丁寧に親切に行いたいと思いますので、発言させていただきました。

(会長)

ありがとうございました。よろしく願いいたします。他にいかがでしょうか。

(金井委員)

相模原市では感染症対策課で肝炎関係の事務を行っております。市の事情ですが、コロナ対策をここ数年集中的に行っており、同じ課で肝炎も扱っているのですが、肝炎についてはなかなか注力できていない状況です。検診関係につきましては、別の部署で行っていますが、検診に来られる方が少ないということで、肝炎検査も少ないという状況がございました。令和3年以降は状況が改善されてきましたので、今後はコロナ前の状況まで受診者数が戻ってくるかなと思いますので、肝炎対策は力を入れていけるのかなと思います。ちょっとまだコロナの方が少ない人の中で対応しているという事情はありますが、今後肝炎対策についても、力を入れていけるかなと思っていますところです。

(会長)

ありがとうございます。相模原市は市域が広いので大変だと思いますけどよろしく願いいたします。

(小林氏(小菅委員代理))

横須賀市の状況ですが、先ほど相模原市からもありましたように、私たちも肝炎対策につきましては、今年度機構改革がある中で、保健予防課で精神保健と感染症とコロナということで一つの課の中で対応しているという状況がございます。肝炎対策については、積極的に取り組んでいるかと言われますと、申し訳ございませんが、他の自治体の取組みを参考にさせていただきたいと思い、今回参加しておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(会長)

よろしく願いいたします。

(今井氏(野木委員代理))

川崎市は幸いコロナの状況であっても受検者数は横ばいですが、課題は、肝炎ウイルス検査を特定感染症検査等事業でやっていますので、重複した受診者が多く、陽性とわかっているけど、もう一度受診するので、複数回陽性になっている方がいらっしゃいますので、肝炎の治療をしたから精密検査は受けないという状況です。また、普及啓発では、肝臓週間に南武線で広告を出し、それを見て、検査を受検する方もいらっしゃいます。

(会長)

ありがとうございます。川崎市は職域に対する広報等はされていますでしょうか。

(今井氏(野木委員代理))

企業向けの個別で訪問する健康教育がある際にはお話をしていますが、特にそれ以外は実施していません。

(会長)

ありがとうございました。

(東委員)

素案については特に意見等はございません。横浜市は肝炎に対して積極的な取組みはなかなか難しい状況ですが、他自治体の取組みを参考にさせていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。

(幸田委員)

冒頭の目標達成状況の説明で、2シート目の周知啓発の分析で、メディアやSNS等を利用した普及啓発が着手できてない中で、今回新たに目標設定をプラス10ポイントで60%ということで、目標が上がってしまうのはやむを得ないのかなと思いますが、今現在の段階で、メディアやSNSについて想定しているものがあれば参考に教えていただきたいと思います。

(会長)

これは事務局からお願いできますでしょうか。

(事務局)

メディアについては、県の広報媒体で利用できるものが考えられます。具体的には県のホームページにおいて動画で普及啓発できるチャンネルがありますので、まずは県の中で使えるものから取り組んでいこうと考えています。逆に言いますと、今現在県の広報媒体を活用できているかという、そうではありませんので、そこから着手していこうと考えているところです。

(幸田委員)

ありがとうございます。藤沢市で毎週木曜日にH I Vと梅毒の無料匿名検査を実施しています。今年9月からL I N Eを使って申込みができるようにしました。始めた時は、今さらL I N Eということもありましたが、実際始めてみると7割ぐらいの方はL I N Eで申込みをされるようになっていきましたので、一定の効果があるということを確認しているところです。L I N E等の既に普及しているものを使って、どのように普及啓発していくのかということもありますが、普及啓発は特に大事なところだと思いますので、いろいろやっていただきたいなと思っています。

(会長)

ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。大学関係の委員の方に移らせていただきます。東海大学の加川委員いかがでしょうか。

(加川委員)

ちゃんとした数値目標を出されていて、とても良いと思いましたが、県民ニーズ調査の結果を目標値にされるということで、県民ニーズ調査はどの様に調査されるのでしょうか。規模や地域等全体を反映できるのでしょうか。

(事務局)

県民ニーズ調査は全県民の中で18歳以上の方を対象に抽出して、無作為に回答いただいています。例年約1,400人から1,500人の方に回答いただいています。

(加川委員)

年齢や地域はランダムに選ばれて、全体を反映するような形でデータを取られるということですね。

(事務局)

県内全域で年齢についても18歳以上の方ということで、対象としては偏りなく、取っているという状況です。

(加川委員)
承知しました。

(会長)
ありがとうございます。続きまして聖マリアンナ医科大学の鈴木委員、お願いできますでしょうか。

(鈴木委員)
先ほどのお話にもありましたが、特に若い方に対して、ウイルスが陽性かどうかという受診のきっかけを、SNS等を利用して、もう少し展開ができないかとすごく思います。SNSやメディアを使って肝炎に係る普及啓発を具体的に検討いただければと思います。

(会長)
これに対して事務局から何かありますか。

(事務局)
県民ニーズ調査で、18歳から29歳の方の認知度は60%弱ということで、比較的高いですが、30代の方が低く40代の方も50%を切っています。そのため、働いている年代ということで、やはり職域の普及啓発は必要なのではないかと考えます。また、18歳から29歳の認知度は高いですが、感染リスクということを知っていただく必要がある年代であると思いますので、SNSやメディア等を活用した普及啓発を検討してまいります。また、国で行っている「知って肝炎プロジェクト」の資材については、神奈川県はこれまで利用していませんでしたが、知名度の高い方が大使として活動されていることもありますので、何らかの形で神奈川県も参画できないかと検討する余地はあるかと考えます。

(会長)
国の施策に乗って、神奈川県でも若い方に向けた情報発信をできるといいですね。是非検討していただきたいと思います。また、年齢によってばらつきがあるということは、初めての説明だったと思いますが、やはり職域に対する啓蒙は少し足りていないところが新しい知見ではないかと思いました。続きまして、公募委員の皆様何かご意見ございますでしょうか。

(松井委員)
今回も追加で各市町村の40歳以上の検査率のデータを追加で出しております。今回は申込方法がどうなっているのか、受診券を配られているところ等の調査を行いました。その中で、受診券とクーポン券

等を配布している小田原市、茅ヶ崎市、秦野市、南足柄市、寒川町等とありますが、そういう市町村の受診率が高いかということ、そうでもないようで、それが一致していると思われるのが箱根町だけのように思われます。受診券等を配っても受検率につながっていないと思います。各市町村がどのような工夫をされているかというのは、なかなか見えてこないのが、協議会に出席されている自治体と共有させていただければと思います。しかしそれ以外の自治体については共有がなかなか難しいということも感じていますので、県が中心になって聞き取り等も検討していただければと思います。私たちも5年以上前から各自治体、保健所等を回ってお話を伺う等の地道な活動を行っていましたが、コロナで難しくなったり、原告団の患者が高齢化ということで、活動が難しくなっているということも大きな要因となっていますので、こういう場でみなさんに共有していただけたらと思います。

(会長)

ありがとうございます。自治体のほうから御意見ありますでしょうか。

(金井委員)

相模原市は、健康増進事業の中で肝炎ウイルス事業を行っております。受診券を30万人以上の市民の方にお送りしています。40歳から70歳までの5歳刻みの方々については、通常1,200円受診費用がかかる所を無料で検査できます。

(会長)

ありがとうございます。他の自治体も簡単で良いので一言ずつコメントいただけますでしょうか。

(井上委員)

私もこのデータを見て、少ないことに驚きました。健康増進法により受診券を発送している状況で、健康増進課に職員が確認中ですので、後日事務局にお伝えできればと思います。

<確認後の報告内容>

茅ヶ崎市は、健康増進事業の中で肝炎ウイルス検査事業を実施しております。対象は40歳以上の方であり、40歳の方に対しては受診券をお送りし無料で検査を実施しておりますが、41歳以上の方については通常、2,000円、市の特定健康診査と同時受検ならば1,200円で検査を実施しております。

(会長)

ありがとうございます。

(小林氏(小菅委員代理))

横須賀市も他課からの発送となりますので、現状については、後日御報告させていただきたく思います。

<確認後の報告内容>

横須賀市は健康増進事業として、肝炎ウイルス検診を市内の実施医療機関にて、40歳以上の方を対象として実施しています。40歳の方のみを無料とし、40歳以上の方(今までに実施していない方)には1,250円の自己負担としています。

(会長)

ありがとうございます。

(今井委員(野木珠美委員代理))

川崎市は健康増進事業ではなく、特定感染症検査等事業で実施しておりますので、市からは発送せず医療機関で希望者が受けているという形になります。

(会長)

ありがとうございます。まだいろいろ問題は山積みであるように思います。他に何か御意見はございますでしょうか。

(賀川委員)

33市町村でコーディネーターがない市町村を把握しているのでしょうか。

(事務局)

現在任期のある、令和元年から3年度に認定しているコーディネーターの所属がどこにあるかという観点で、配置市町村を集計し把握しております。資料でも記載しておりますが、現在33市町村中18市町村に配置という状況となっております。配置がまだされていない自治体は事務局で把握しております。

(賀川委員)

ありがとうございます。今後、県はコーディネーターをどのように全市町村に配置していこうと考えているのか教えていただけますでしょうか。

(事務局)

現状の分析として、先ほど資料の中で御説明したように、職種では薬剤師、医療機関にお勤めの方が非常に多いという状況です。必然的に薬局や医療機関が多く集中している自治体には、コーディネーター

	<p>がいらっしやり、逆に薬局や医療機関が少ない地域にはコーディネーターが配置されていない状況になっております。今後は、先ほど井上委員からのご指摘していただいたように、行政への周知はこれまでできていなかったところですので、まずは自治体の肝疾患の事務に関わる方にコーディネーターになっていただくよう周知していこうと考えているところです。</p> <p>(会長)</p> <p>コーディネーターの数を増やすことも大事ですが、実際に何をやっているか検証することも大事ではないかと考えております。全体を通して何か追加で御意見ございますでしょうか。県の素案で話を進めさせていただいてよろしいでしょうか。まだまだ問題は残っているかと思いますが、特に現時点では御意見がないということであれば、以上を持ちまして議事を終了したいと思います。長時間にわたりお疲れさまでした。</p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
	<p>資料 1 神奈川県肝炎対策推進計画改定素案について</p> <p>資料 2 神奈川県肝炎対策推進計画改定素案</p>